

1 パソコン・インターネットの利用状況

現在、パソコンやインターネットは、私たちの日常生活だけではなく、学修・研究の場でも不可欠なものになっています。

変貌するメディアの役割

紙媒体、放送からインターネットメディアへ

- 本格的なインターネット社会を迎えて、私たちがさまざまな情報を入手するメディアも大きく変わってきました。かつては、新聞・雑誌・書籍が最新の様々な情報を提供し、20世紀中頃からはラジオ・テレビといった放送メディアが社会に与える情報源として大きな役割を担ってきました。1990年代にはインターネットの商用化から始まり、企業・大学から家庭まで光ファイバーが接続され、3G、4Gといった無線通信の普及も相まって、インターネットが情報メディアの主役となっています。
 - 私たちが日常のニュースを新聞・雑誌あるいは放送よりもインターネット上のニュースサイトやSNSから情報を得る機会の方がはるかに多くなっています。公益財団法人新聞通信調査会の2019年の調査*1によると、20代では、ニュースの入手先としてはインターネット（SNSを含む）からは91.2%に対し、民放テレビ75.7%が続ぎ、NHK テレビが43.6%、新聞からは28.7%に過ぎません。また、全体的に新聞の購読率は下がり続けています。またネット閲覧に使用する機器もパソコンよりもモバイル機器の割合が圧倒的に高いのも特徴です。
- *1 「第12回メディアに関する全国世論調査」、公益財団法人新聞通信調査会、2019年12月
- 情報の迅速性からはインターネットのニュースが有利ですが、一方で新聞・雑誌のような紙媒体のメディアは、伝統に培われた豊富で深く掘り下げられた内容を持った情報源ですので、それを多くの学生が利用して

いない状況は残念なことです。また、インターネットニュースは、自分の興味のある分野については迅速かつ大量に情報が常に入ってきますが、一方でみなさんが自分の興味のある分野以外の情報に視野を拓げるのにはむしろ不適な面もあります。たとえば新聞を1部買った場合を考えてみましょう。おそらく1面にある大きな見出しのニュース、あるいは社会面のニュースをまず読み始めるでしょう。しかし新聞にはそれ以外にも様々な記事や特集・解説記事が掲載されています。せっかく購入した新聞なので、ページをめくる途中でそうした記事にも目を向けると、自分がこれまで興味を持たなかったことや何となく曖昧にしか知らなかった事柄が詳しく解説されているかもしれません。こうして自分の視野を広げていくことができます。

- しかし、インターネットニュースでは、自分がこれまで興味を持たなかった記事はフィルターされてしまって、目にする機会がとてもしなくなってしまう。またネット上だけでは、簡単な内容の記事しかなく、根拠の曖昧な情報も多く出回っているのも事実です。
- したがってネット情報だけに依存するのではなく、新聞、雑誌、書籍などの従来型の情報も積極的に利用することが必要です。また、インターネットはそれらの媒体に蓄積された質の高い情報を取り出す入り口を提供することもできます。大学での学修やキャリア形成には、これら新旧のメディアを使いこなすことが大切です。

家庭では

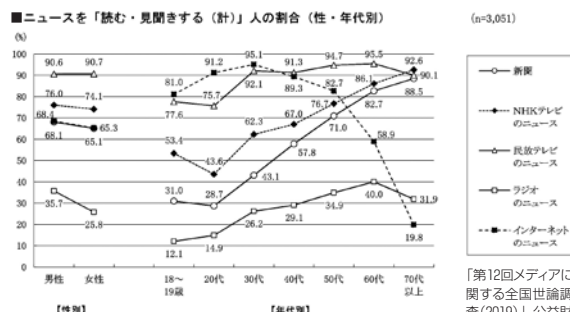
さまざまな用途で使われる家庭におけるパソコン

- 大学でのパソコンの利用を考える前に、現在、家庭で

Column

「メディアに関する全国世論調査」結果の一部

本文で述べた公益財団法人新聞通信調査会の「メディアに関する全国世論調査」結果の一部です。ここでは、利用者の年代によって利用されるニュースメディアが大きく異なりますが、現代の10代、20代のインターネット偏重の傾向が、このまま将来彼らが年齢を重ねてもそのまま推移するのか興味深いところですよ。



「第12回メディアに関する全国世論調査(2019)」公益財団法人新聞通信調査会より

パソコンはどのように使われているかを考えてみましょう。

- 現在、家庭でのパソコンの利用は、電子メールのやりとりやWebでさまざまな情報を調べたりLINEやFacebook等に代表されるSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）でメッセージを読んだり書き込みをする、あるいはチケットの予約やオンラインショッピング、音楽やビデオの視聴や購入、オークションへの参加などが用途の多くを占めているのが実情でしょう。ただし、これらの用途は、最近ではパソコンよりもスマートフォンやタブレット型端末で利用される頻度が高まっています。
- なかには自分でブログやTwitter、Facebook、Instagramなどを始めて自分の日常体験や考えたことなどを公開している人もいるかもしれません。また、インターネット以外の用途としては、ワープロ・ソフトを使った文書作成、デジタルカメラやスマートフォンで撮った画像の管理や印刷、デジタルビデオで撮影したムービーの編集や保存、はがき印刷ソフトを使って年賀状や暑中見舞いの印刷、コンピュータ・ゲーム、お絵描きソフトによるコンピュータ・グラフィック作成といったところでしょう。

本学の状況

コンピュータの役割は非常に大きくなっています

- 現在では高等学校で普通教科「情報」が必修となり、みなさんはコンピュータやインターネットに関する基本的な知識やスキルは高等学校でひと通り学んでいます。
- 本学でも、理系・文系にかかわらずコンピュータやインターネットを利用する知識と技術は、学生にとって不可欠なものとなっています。学部、専攻分野によって利用の頻度や傾向は異なりますが、いずれの学部であってもレポート作成、演習、実習、研究などの多くの場面でコンピュータは利用されています。
- 講義では、まだ全面的にコンピュータを利用する科目ばかりではありませんが、その利用は年々増加してい

ますし、学修・研究を進めるための道具としてのパソコンやインターネットの役割は非常に大きなものとなっています。

- 教職を目指す分野では、現行の学習指導要領から小学校でのプログラミング教育が必修化されており、教育現場でのICT化はますます進んでいきます。
- さらに履修登録や休講通知、さまざまな諸連絡がインターネットのWebや掲示板機能を活用して行われています。本学でもBlackboard@TamagawaというWebによる学修支援システムやUNITAMAという大学情報ポータルサイトが従来の掲示板に取って代わって利用されています。すでに履修登録はすべてUNITAMAを使って行われますし、学生が自分の成績を確認するのもこれを使って行われます。掲示板としてはまずこれを第一に使うことが定着しています。Blackboard@Tamagawaでは、さまざまな講義の支援だけでなく、それを利用した遠隔教育による単位認定もすでに一部で行われています。

大学の現場では

文書作成やデータ収集などに利用されています

- パソコンの使い方としてはインターネット情報を利用するための機器としての使い方の他に、ワープロや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトで文書やファイルを作成する作業や、学部によってはプログラミングやさまざまなデータ処理、機器の制御などに利用する使い方もあります。
- 大学では家庭における一般的な用途に比べて、ワープロ・ソフトや表計算ソフトでの作業の割合が多くなり、そうしたソフトウェアを十分に使いこなすことが要求されます。また、レポート作成でもネット上の資料やデータを収集・参照しながら行う場合も多く、常時インターネットに接続されている環境が不可欠です。
- 次ページから、現在大学でどのようにパソコンやインターネットが使われているかをまとめていきます。便宜上、パソコン単独で利用する場合と、インターネットとパソコンを接続して利用する場合とに分けていますが、実際には相互に補完し合って利用する場合がほとんどです。

■月々めでとっている新聞（時系列）

